

# コンゴ民主共和国

## 無視され続ける世界最大の紛争



コンゴ民主共和国の紛争は「アフリカの第一次世界大戦」といわれ、犠牲者は【540万人】と世界最大規模です。その原因は、私たちの「携帯電話」にも大きくかかわっています。

「第2次世界大戦以降、世界最大の死者数を出したコンゴ民主共和国の紛争が、これまで日本のメディアに取り上げられることはありませんでした。読売新聞では、チリ落盤事故の救出劇のたった1日分の報道量（10月14日の朝刊、夕刊）がコンゴ民主共和国の紛争の5年分もの報道を上回っていました。これほどバランスの取れていない報道はなぜ起こるのでしょうか。アフリカも世界の一部です。」

(<http://stealthconflictsjp.wordpress.com/2010/10/19/congoweeek2010-2/>より)

2010年10月17～23日はこの戦争を多くの方々に知ってもらうためのキャンペーン『Congo Week』であり、40カ国以上が参加してグローバルにイベントが行われていました。

大阪大学では国際公共政策研究科のVirgil HAWKINS 准教授の講演会や、コンゴカフェ・演劇鑑賞などが催され、好評を博したのです。が・・・しかし。

「残念ながら参加できなかった」という方々も多数おり、吹田キャンパスでも開催されることとなりました！コンゴのことを知らなかった方、もっと知りたい方。

どなたでも、ぜひお気軽にご参加くださいね♪

**【講演】 2010年11月16日（火）**  
5時限目（16:20～17:50）

**コンゴ民主共和国の紛争を「知る」「考える」「語る」**

講師：Virgil HAWKINS 准教授（大阪大学大学院国際公共政策研究科）

@大阪大学 吹田キャンパス 人間科学研究科 東館106号室

※「ステルス紛争」とは、当時国以外の政府関係者（政治家・官僚）、メディア、公衆、NGO、研究者等の注目を引かない紛争である。ステルス空爆機がレーダーに引っ掛らずに大きなダメージを与えるのと同じように、ステルス紛争はいわゆる「国際意識」の「レーダー」に引っ掛らずに大きなダメージを与える紛争だと言えよう。無視されるからこそ、[中略] 人道支援が少なく、外国からの強制措置も当事者の自制も効かず、紛争がもたらす飢えや病気による死者が止まらず、弾丸と爆弾による死者をはるかに超える。

（「ステルス戦争」<http://stealthconflictsjp.wordpress.com/>より引用）

「一人でも多く、暗い場所に光を当てる「窓人間」になることを望む」

ヴァージル・ホーキンス